

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市高砂老人福祉センター
2	指定管理者	社会福祉法人仙台市社会福祉協議会
3	指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 平成30年度42,108人(前年度比98.1%) 平成29年度42,928人(前年度比97.0%) 平成28年度44,251人(前年度比97.9%)</p> <p>《事業》 生活相談・健康相談(月平均129件)、福祉電話事業(1件)、趣味の教室(6教室)、自主事業(学び舎サロン)、介護予防事業(お達者クラブ、パワーリハビリ開放)、新/認知症予防事業(認知症カフェ・健康マージャン教室)、健康講話(年2回)、シニアボランティア入門講座、健康料理教室(2回)、介護予防運動教室(2回)、新/介護予防口腔ケア教室(1回)小正月を楽しもう、豊齢を祝う会、高砂児童館世代間交流事業(1回)、高砂保育所世代間交流事業(1回)、小学生施設見学受入、中学生職場体験受入、夏のボランティア体験受入、節分うた祭り、草取り、落ち葉拾い、併設施設共催「七夕飾り」展示、編み物作品展示、雛壇飾り展示、映画上映会(8回)、変わり湯(12回)、全館合同防災訓練(2回)、市民センターまつり参加、杜のシニア祭参加、合同作品展参加</p>
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <p style="text-align: right;">()は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理者に支払った費用 32,831千円 (32,831千円) ・ その他市が負担した費用 3,039千円 (1,291千円) <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6	利用者の声	<p>《実施状況》 地域委員会(2回)、運営委員会(2回)、趣味の教室講師懇談会(1回)、愛好会代表者意見交換会(1回)、総合相談窓口開設(常時)、苦情解決相談窓口開設(2回)、意見箱の設置(常時)</p>

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	老人福祉センターの設置目的を踏まえた基本方針に基づき施設運営がなされており、職員も設置目的を適切に理解している。 また、利用者の健康づくりや、公平・公正な利用、高齢者の特性を理解したうえで、心身への配慮に努めるなど、利用者本位の施設運営を行っている。	33/33
II	施設の運営管理体制	必要数の職員が配置されており、各職員は他の職員の業務状況を把握している。経理処理も書類作成など適正に行われている。 また、個人情報の漏洩や滅失を防止するため、管理責任者を定めるとともに職員への周知等、意識啓発も行うなど、個人情報保護に対する体制を整えている。 事故や災害の発生に備え、併設施設との役割の確認を行ったほか、連絡体制や職員の役割分担を予め決めていくなど、対応体制を構築している。	24/24
III	施設・設備の維持管理	利用者の安全・安心・快適な利用を維持するため、施設内外の清掃を適切に行い、事故防止のための館内巡回も行われている。 また、張り紙等を活用し、節電やごみ発生の抑制、グリーン購入を実施するなど、環境に配慮した施設運営を行っている。	24/24
IV	サービスの質の向上	利用者が気持ちよく利用できるよう、丁寧な対応と分かりやすい説明を心がけている。 また、毎月のセンターだより発行など、利用者への情報提供や施設のPRも積極的に行っているほか、利用者の意見や苦情に対し、その対応手順や担当者を明確にし、常時苦情相談が出来る体制づくりと併せて、第三者委員会による苦情解決相談窓口を年2回開設している。 さらに、利用者の意見や苦情に対し、その対応手順や担当者を明確にするとともに、市が実施する利用者アンケートの他にも独自アンケートを実施してニーズを把握するなど、利用者の意見を反映した施設運営に意欲的に取り組んでいる。	28/28

V	施設固有の基準	高齢者が自ら学んだことを発表する機会の設定を積極的に行なっており、利用者の主体的な企画実施に対する支援も行っている。 また、利用者の代表者で構成する委員会を立ち上げ、利用者が施設運営に関わる仕組みづくりに努め、利用者の意見を取り入れた企画の立案を行っている。	9/9
---	---------	--	-----

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

四 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人仙台市社会福祉協議会）による自己評価》
<p>当センターでは、公の施設である老人福祉センターに共通する管理運営方針に加え、本会の活動基本理念である「一人ひとりの市民が、その人らしく地域で安心していきいきと暮らせる福祉のまちづくり」の考えに基づいて、地域包括ケアシステム構築に寄与することを目的に、介護予防事業の継続やボランティア講座等を開催していく中で、地区社協や町内会・老人クラブ等の地域関係団体と連携を深め、高齢者の社会参加・社会貢献を支援するために次のような事業展開を行った。</p> <p>介護予防事業では、マージャン教室、パワーリハビリ教室、学び舎サロンの開催により、身体機能や認知機能の維持・向上を支援した。公平化により新規利用者を受入れやすくするため、平成29年度に引き続き、既存事業を整理し、自主グループ化を推進した。結果、平成31年度5月より上掲の学び舎サロンが自主グループ化する予定である。</p> <p>また、平成29年度からの重点事業である介護予防教室では、内容の充実化や工夫を図った。具体には、新たなプログラム提供のため歯科衛生士や近隣の福祉施設と連携を図り、利用者ニーズに添えるよう努めた。</p> <p>認知症予防事業では、6月より認知症カフェを立ち上げた。立ち上げにあたっては、地域との連携を意識した広報も行い、参加実績は延べ245人、平均27.2人であり好評である。一方で、課題として認知症当事者やその家族の参加を促す仕組みの更なる改善が必要であり、関係団体や併設の包括支援センターと連携し課題解決を図る必要がある。</p> <p>ボランティア育成については、宮城野区ボランティアセンターと共催でボランティア入門講座を開催し、併設の児童館や地域の保育所、老人福祉施設の協力の下、ボランティア体験を実施し、体験後のサポートを手厚くすることで、受講者8名中5名がボランティア体験先でボランティア活動を継続されている。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成30年度の管理運営について、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われた。</p> <p>介護予防や社会貢献活動に力を入れており、「学び舎サロン」、「パワーリハビリ教室」などを継続して開催しているほか、新たに認知症予防事業として「認知症カフェ」などを開催している。また関係機関と連携のうえ、ボランティアの育成に向けた取り組みを進めており、実際に地域ボランティア活動につなげており、保育所や児童館との共催事業の実施や、職場体験等の受け入れを行い、世代間交流にも取り組んでいる。</p> <p>利用者に対する独自アンケートの実施や、意見交換会を開催し、ニーズや課題の把握、解決に向けて検討を行うなど、利用者主体の施設運営に努めており、総合的に高く評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局保険高齢部高齢企画課